



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/18 (月)	+ 200	▲ 4,000	▲ 3,800	国庫短期証券発行償還 (3M) 国債発行(物連10年)	国債補充供給 +400 被災地支援 ▲300	被災地支援 +130	
8/19 (火)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000				
8/20 (水)	+ 1,000	▲ 8,000	▲ 7,000	国庫短期証券発行償還 (1Y) 国債発行(20年)	共通担保 ▲ 8,000		日：貿易収支 (7月) 米：FOMC議事要旨 (7月29日・30日開催分) 欧：ユーロ圏CPI (7月)
8/21 (木)	+ 1,000	+ 11,000	+ 12,000				米：ジャクソンホール会合 欧：ユーロ圏製造業・サービス業・総合PMI (8月) ユーロ圏消費者信頼感指数 (8月)
8/22 (金)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	流動性供給			日：全国CPI(7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆100億円減少の517兆6,400億円から始まった。その後、源泉税揚げや国債発行、年金定時払い等の要因により増減し、8月15日は522兆9,700億円（速報）で越過した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.478%～0.590%のレンジ、1M～3M物0.605%～0.710%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、8月20日に貿易収支（7月）、22日に全国CPI（7月）が公表される。海外では20日に米FOMC議事要旨（7月29日・30日開催分）、ユーロ圏CPI（7月）の公表、21日に米ジャクソンホール会合の開催などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.53 ～ 0.60
2M	0.54 ～ 0.65
3M	0.58 ～ 0.70
6M	0.65 ～ 0.85

<レボ>

足許GCは週を通して+0.485%～+0.495%の狭いレンジで取引された。買い入れオペのあった14日や、短国の発行があった15日の取引も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年470～475回債、5年155～179回債、10年355～371、378～379回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ～ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約6,435億円で、週間償還額の7000億円を下回った。発行残高は先週末時点の25兆5,786億円から、8月14日時点で25兆4,669億円に減少した。

発行市場は、事業法人の長期休暇が重なり、落ち着いたマーケットであったものの、小売業、卸売業など一部の業種では大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、先週に引き続き、a-1格相当の1か月物では政策金利に近い0.50%台前半での出合い、3か月物では0.60%台前半を中心に出合いが見られた。

来週の償還額は1兆1,000億円となっている。発行市場は、長期休暇明けで企業の発行ニーズが旺盛になることから、活況なマーケットが予想される。発行レートは、一部では早期利上げを織り込む動きがあり、引き続きレート水準を探る展開が見込まれるだろう。

<TDB>

15日の3M（1325回債）の入札は、最高落札利回り0.4457%（前回債0.4242%）、平均落札利回り0.4340%（前回債0.4083%）となった。

来週の入札は8月19日に1Y、22日に3Mが予定されている。